

\* \* \* \*

東京都の市が谷にある堀から1981年7月に得た藻について分類学的検討を加えた。その結果、この藻はミドリムシ属の新種であることが明らかになったので、*Euglena undulata* Kato と命名し記載する。本種は次の2つの特徴の組み合わせにより、ミドリムシ属の他の種と明瞭に区別される。1) 皿状の葉緑体の中央部に両面がパラミロン鞘でおおわれたピレノイドをもつ、2) 細胞は倒卵形でその側面が波打つ。

□二口善雄 (画), 鈴木省三・靱山泰一 (解説): ばら花譜 (Roses in colour) A 4 版, 96 pp. 161 col. pls. 1983. 平凡社, 東京. ¥24,000. 二口画伯が10年間かかってすべて生品から写生されたバラの彩色図譜である。第1部「日本に野生する種類」は雑種をふくみ20図版からなる。ここでは多年にわたってバラ属を研究された靱山泰一氏が、日本野生のものを14種にまとめられている。氏独特の味のある言葉で記述され、検索表もつけられているので大変役に立つ。第2部は「原種・原種交雑種およびオールド・ローズ」、第3部は「モダン・ローズ」となっている、日本で栽培されたバラ200近くが網羅されている。今では珍しい古典的な品種から近年日本で作出された新品種まで載っていて目を楽しませてくれる。原図は実物大に書かれたが、本図譜では3/4程に縮小されているのが残念だが、一方これ以上定価が高くなっても困るであろう。(原 寛)

□楊 再義: 台湾植物名彙 (Yang, Tsai-i: A list of plants in Taiwan) 1281+351 pp. 1982. 天然書社, 台北. \$50. 台湾は割合に植物が豊富な所として有名である。台湾のリストとしては正宗敬: 最新台湾植物目録 (1936) が古い、その後台湾植物目録 (1954) が出され、1970年からは台湾自体で種々の目録や植物誌が出版された。ことに1975-79年には Flora of Taiwan vol. 1-6 がでて十分な質と量に達した。そこでは台湾自生の種は228科1,324属3,577種を挙げているのに、本書では244科1,324属3,524種となって多少減っている。しかし本書では学名に多くの異名を掲げ、台湾名、英名の外に日本名、さらにタイヤル語やパイワン語等も加えているし、産地もたとえば *Pinus insularis* Endl. では原産地の外に省林試所六亀分所を附記しているなどなかなか詳しい。それに帰化や栽培のものを添記してあって、約3,000に及ぶ種が書かれているのは参考になる。活字も大きくて読み易いのも一つの特徴だし、科名に中国の発音記号を附けたのも面白い。また、各科の出発点を頁の頭に持って来たのは思い付きであった。しかし欲をいえば学名、異名、外来植物名等を活字のタイプか号数を変えるかして、もっとページを減らしてほしかったと思う。そうすればずっと見易くまた軽便になるだろう。(前川文夫)